

平成30年度小学校国語科の指導の重点

【本県の課題】

- ・物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして考えをまとめること
- ・資料を読んで分かったことを整理し、考えをまとめること
- ・辞書の利用、ローマ字や当該学年の漢字を書くこと、敬語を適切に使うことなど、伝統的な言語文化、文字や言葉のきまりについての理解

【指導の重点】

- ・学習指導要領に示された指導事項を踏まえた言語活動の設定
- ・考えとそれを支える理由や事例との関係などを叙述を基に捉える指導
- ・引用したり図表やグラフを用いたりして、自分の考えを適切に表現する指導
- ・漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる指導

【授業でこれから大切にしたいこと】

見通し、まとめ・振り返り

具体的には「国語指導の手引き」平成28・29年度「熊本県学力調査」結果(概要)を参照

単元などのまとまりを見通して、授業改善を行う
学習内容をまとめ、学習を振り返る活動を行う

言語活動の工夫

具体的には「国語指導の手引き」を参照

目的や必要に応じて資料を読み、自分の考えをまとめて、書いたり話したりする活動を行う

語彙指導の充実

具体的には平成29年度「熊本県学力調査」結果(概要)を参照

各領域の言語活動との関連、日常的な活動や生活との結び付きを意識し、計画的に繰り返し指導する

読書指導の充実

日常的に読書に親しむために、学校図書館を計画的に活用する

- ・目的に応じて本や文章などを選ぶことができるようにする
- ・授業の中で、同じ作者の別の本や関連する資料など、様々な種類の文章を読む学習を行う

【移行措置の内容】

平成30年度の第4学年、平成31年度の第4学年及び第5学年は、新学習指導要領の学年別漢字配当表に配当されている漢字により指導

漢字指導の改善・充実「学年別漢字配当表」

	現行	新学習指導要領
第4学年	200字	202字 茨、媛、岡、瀧、岐、熊、香、佐、崎、崎、滋、鹿、縄、井、沖、楊、奈、梨、阪、早、賀、群、徳、富(5年から)、城(6年から)
第5学年	185字	193字 固、紀、喜、救、型、航、告、殺、士、史、象、賞、貯、停、堂、得、毒、費、粉、豚、歴(4年から)
第6学年	181字	191字 胃、腸(4年から)、恩、券、承、舌、銭、退、敵、依、預(5年から)

【具体的な指導例】

出典：平成29年度授業アイデア例 小学校(国立教育政策研究所教育課程研究センター)

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善 ～叙述を基に推薦理由を明確にして、物語の魅力伝える授業の例～

「心に響いた物語を推薦しよう」(2・3時間め/全7時間)



Aさん 「あたりの木が…」というところが心に響いたよ。この物語の魅力はほかにもあるかな。

「きつねの写真」の不思議なところを推薦したいな。



Bさん どこからそう思ったの。



Aさん 「あたりの木がいっせいにざざっと…」のところから。



Cさん Aさんは情景を基に考えたんだね。他にも人物の行動からも考えられるね。

心に響いた場面や叙述とその理由について交流する

☆心に響いた場面や叙述とその理由を明確にするために…

- 心に響く叙述を見付ける
 - ・登場人物の行動、会話、心情、相互関係
 - ・場面についての描写 など
- 複数の場面の叙述を相互に関係付ける
- 知識や経験、読書体験などと結び付ける
- ☆交流を通して、考えを明確にするために…
- 自分の考えがどの叙述に基づいているのかを、児童が自覚できるようにする

【指導のポイント】複数の叙述を関係付けながら、それらを基に理由を明確にして、自分の考えをまとめるためには、低学年段階では登場人物の行動など、中学年段階では登場人物の性格や気持ちの変化、情景などに着目し、叙述を基に想像して読むことができるように指導することが大切です。

思考力・判断力を高める発問例

【立ち止まって、深くじっくり考えさせる教師の発問の具体化】

- ・「こんな点から考えると何が分かるかな。その次はこの点から考えてごらん。」(観点)
- ・「これとこれを比べてみよう。分かったことと考えたことを分けてごらん。」(比較・整理)
- ・「これとこれを結び付けて考えると、どんなことが分かるかな。」(関連・統合)
- ・「理由や根拠をいくつか挙げられますか。どのようなことですか。」(理由・根拠)
- ・「立場(目的、相手など)が変わると、それで伝わるかな。」(目的・位置)
- ・「示した条件に合わせて説明してみよう。三つに絞って説明してごらん。」(条件)